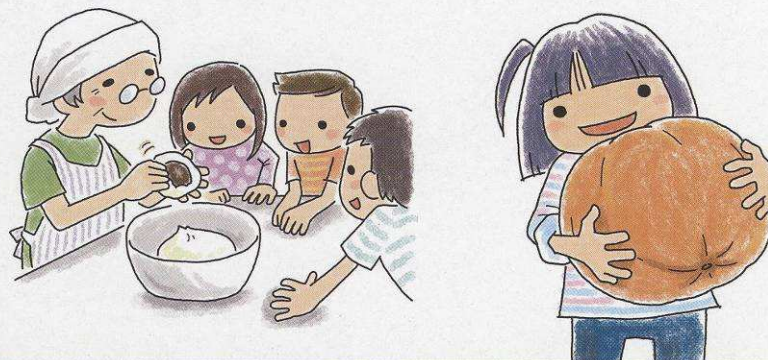


子どもが変わる 地域が変わる

教育ファーム事例集



農林水産省

体験から学ぶ…… 本物の学びを支える取組みを

子どもを主体(主役)に
課題(問題)解決的に、自力でやりとげるように、進んでやる気になる仕掛けを



指導者(農家など)はサポート役に
「ともに体験する」姿勢で、「気づき」の質を高める工夫を

成果を伝えあう交流活動を
地域社会への参画を



学びとしての深まりを
「調べ学習」への誘導も



子どもの「変容・成長」の確認・記録を
振り返り、心に刻むために



いま、小中学校でも、「教育ファーム」が求められています 「新指導要領」は体験学習重視に

(新)=新指導要領の改訂項目

生活科(1～2年)の改訂

〈新〉「継続的な飼育、栽培を行う」(生命の尊さを、実感を通して学ぶ)

小学校

総合的な学習の時間(3～6年)の改訂

〈新〉「ものづくり、生産活動などの体験活動」
(地域の人びとの暮らし、伝統と文化を学ぶ)

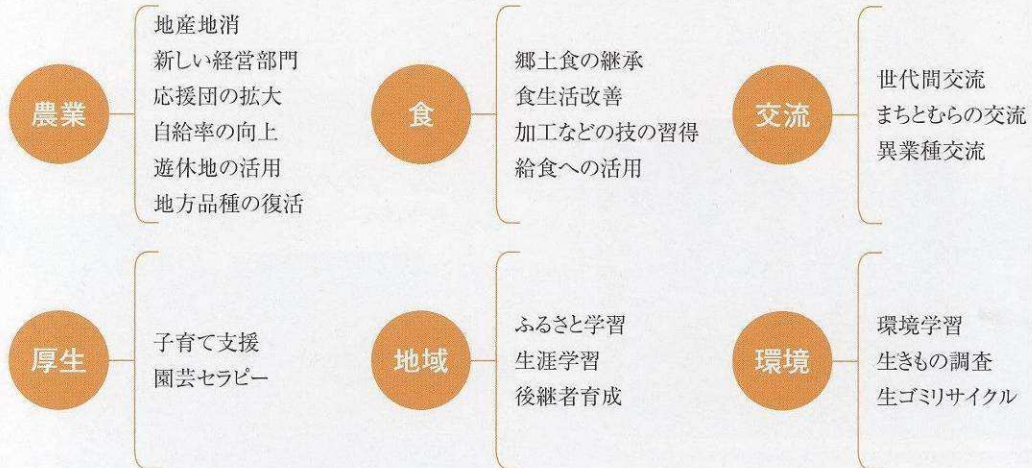
中学校

技術・家庭科(1～3年)の必修内容の改訂

技術分野〈新〉「生物育成」=栽培または飼育の必修化
家庭分野〈新〉「食生活と自立」=地域の食材を生かした調理
地域食文化の理解

○小学校から中学校まで一貫して「継続的な栽培」、「地域食文化」体験が重視されています。

さまざまな思いの実現を教育ファームで 教育ファームに取り組むきっかけはさまざま



教育ファームは思いの実現の場



「いのち」をキーワードに、 継続的な取組みを

（ 農作業体験 ） （いのちを育てる）



（タネマキから収穫まで）

（ 食べる体験 ） （いのちをいただく）



地産地消

（料理・加工体験）

環境に
やさしい
暮らし

（ 環境体験 ） （いのちをつなぐ）



農業・農地のめぐみを探す
（田畑の生きものなど）

環境保全型農業

各地でどんな取組み（タイプ別）があるのか、次頁以降をご覧ください

2

あなたのやりたい 教育ファームはどっち？

学校タイプ

体験型学習として主に、平日の取組み



体験当事者・参加者

保育園
幼稚園(幼児)
小学校(児童)
中学校(生徒)
高校・大学(生徒・学生)
保護者・保育士・教師など

支援・指導者

農林漁業者・農業法人・JA関係者
行政(市町村農政課・教育委員会)
地域ボランティアなど

一般公募タイプ

地域活動として主に、土・日の取組み



体験参加者

親子
家族
児童・生徒・学生
市民
個人

運営・指導者

農林漁業者・農業法人・JA関係者
生協・食品生産流通企業・NPO・市民団体
行政(公民館・市民農園担当)など

学校タイプの教育ファーム

ライフステージ(発達段階)に応じて、
学校タイプの教育ファームにはさまざまな仕掛けがあります。
都市遠隔型や地域密着型など、取り組む地域によっても違いがあります。

幼稚園・保育園(食農保育)



小学校(地域密着授業型)



小学校(出前授業型)



中学校(学校給食畑)



中学校(環境教育)



高校生(未来の食育指導者たち)



教育ファーム 現場からの声

代かきは、子どもたちが田んぼに入り、泥んこになって人力で行います。そのため、田んぼの中に金属や危険な物がないかなど、安全にはかなり気を遣っています。稲刈りも手で行うため、はざかけに使用する材料などは近所の農家の納屋に残っている物を集めて調達してきました。

収穫後の脱穀では、千歯こきと、機械脱穀の両方を体験してもらうことで、機械化によりいかに労働軽減がなされたかを知ってもらっています。

農家の割合が減少しているこの地域で、子どもが食糧の生産に触れることは大切ですし、学校行事で子どもたちと触れあう私は楽しみにしています。

指導農家

子どもにとっては全てが初体験で、はじめは少しびくびくしていました。しかし、スタッフの方や周りの皆さんのおかげで、少しずつ積極的になり、田植えではのびのび活動をしている様子を見て、本当に来て良かったと思いました。

参加者



おじいちゃんと一緒に耕転機を押して、畑作業を懸命にする子ども。抜いた雑草が、子どもの背丈より長いと背比べをする母親。そこには農作業を通じて、自然を体験する微笑ましい親子・家族の姿がありました。

主催者



教育ファーム 現場からの声

トラックの荷台に乗り込み、林道を走り、棚田へと着いた。一段一段の田んぼに生えた草をカマで刈っていった。辺り一面に茂った草を炎天下で刈る作業は、大変な重労働だと痛感した。刈るときの姿勢、カマを持つ手は、長時間だと非常に疲れを感じる。それに日差しが強い下では尚更、体内が暑く感じる。長く感じられた半日の農作業体験は、農家の方々が日々こなす作業のごく一部にしか過ぎない。この一つ一つの作業を丁寧になしていくことで、稲に実が付き、収穫する喜びへと繋がるのだと実感した。普段、私たちは米屋やスーパーなどで様々な種類の米を買うことが出来るが、米に限らず店頭で並べられる過程には大変な苦勞が含まれる。農作業体験をすることで、あらためて農家の方々の作物に対する「思い」を感じる事が出来た。

参加者(大学生)

今日、はじめて田植えをして、昔は機械がなくて手でやっていたので、昔の人はすごく苦勞していたのだと思いました。ご飯1杯ぶんは3株だということも分かったし、おたまじゃくしは3株分で35匹も必要だなんて知りませんでした。今日実際にやったり、話を聞いたりして、お米を作るにはいろいろな人が頑張って作ってくれているということが分かりました。これからはもっとお米を食べたいと思います。

参加者(小学5年生)

初めての田植えはドキドキしたけれど、今日の田植えの勉強を通して、イネを植えるということだけでなく、食べ物の大切さや、あまり肥料を使わずに安全・安心なお米を作るということを学びました。秋になったら稲刈りも早くやってみたいです。

参加者(小学5年生)



いきいき教育ファーム

子どもに、家庭に、学校に、地域に こんな宝が生まれている

教育ファームでの体験を通じて、子どもたちの食と、いのちを育てることに対する気持ちに大きな変化が生まれている。その変化は家庭の親にもおよび、さらには学校の学びにも生かされて教育も変わっていく。何より、指導する生産者や地域の人びとの喜びや自信になり、巡りめぐって地域の宝が育っていく。

3年目を迎えた教育ファームで、どんな宝が生まれているか。本事例集に登場する三つの取り組み—「保育園での幼児期から実践」、「農家を舞台にしたいのち・人のつながりを育む教育ファーム」、「自治体に広がる食育・地産地消をめざす教育ファーム」取材した。

◆就学前から農・食体験◆

子どもも親も生産者も、若さあふれる教育ファーム!

山梨県北杜市 北杜市役所 産業観光部 食と農の杜づくり課

●畑に張った黒いのは「マルチ!」

甲府盆地の北西部に位置し、北に八ヶ岳連峰、南に南アルプスを望む山梨県北杜市。

秋も深まった11月のある日、武川保育園の園庭につくられた“げんきもりもりばたけ”に、こすもすぐみ(年中21人)の子どもたちが元気に集まった。

「今日はここに何植えるんだっけー?」。北杜市役所食と農の杜づくり課、浅川裕介さんがたずねると、「タマネギー」と、一斉にかわいい声上がる。

およそ3m×3mの“げんきもりもりばたけ”はすでに準備万端。前回の活動で、肥料を撒いたりマルチを張ったりする作業も、子どもたちみんなでやった。

「この黒いの、何だか覚えてる?」

「マルチー!」

すかさず返ってきた正解に、浅川さんや指導農家の秋山澄すみえ兄さん、新谷知大しんやともひろさんたちも、思わず「すげえな」と顔を見合わせる。

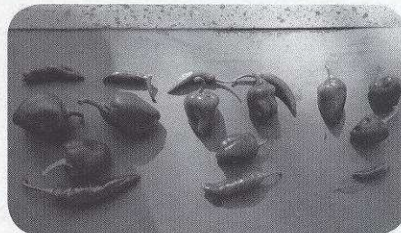


「ここがタマネギになります」と秋山さん

●僕たちだけで草取りやったよ

この子どもたちが武川保育園の畑デビューを果たしたのは5月のこと。それから月に1回ずつ、秋山さんたちから畑のことをたくさん教わってきた。

土づくりのときは裸足になり、肥料を撒くときにはしっかりそれにさわる。植える前の苗をよく観察して匂いもかいで、とにかく五感をフルに使った農業体験指導にこだわってきた秋山さんたち。その効果もあってか、子どもたちの畑への親しみは回を追うごとに増していき、毎月の活動の合間にも子どもたちだけで虫を取ったり草を取ったり。そして一ヶ月振りにやってきた秋山さんたちに、



「こんなのつくったよ!」

JA組織の次世代対策、 農業の将来への思いを込めて

JA西三河のある愛知県南西部は、年間を通して温暖な気候と矢作川のもたらす実り豊かな大地に恵まれ、「ないものはない」といわれるほど多種多様な農作物が生産される地域だ。水田ではイネと麦と大豆の2年3作の輪作体系が確立し、作業受委託などによる大規模な経営体も多い。こうした立地のもと、農業を身近に感じることのできる小学校が多く、西尾市内14校のうち11校、一色町内で1校の計12校で米づくりなどの農業体験が行なわれている。

■大規模な担い手農家が子どもたちに教える

JA組合員農家による地元小学校の米づくり体験支援を、平成20年度から教育ファームの取組みに変更し、今はJAバンク協調型事業として展開中だ。

大規模経営の農家が多いため、田植えや収穫の繁忙期とずれるよう晩生の「あいちのかおり」やモチ米などを体験に使用。これにより農家側の負担も軽減でき、米を餅などに加工して喜ばれるというメリットもある（卒業式の紅白餅に使う小学校も）。

また、子どもたちは手によるイネ刈り体験のほか、機械収穫も見学。自分たちが時間をかけて刈り取っていた田んぼが、機械であつという間に脱穀まで済んでしまうのを見て、機械化のメリットを肌で感じることができる。

いっぽう、騒音の出る大型機械での作業や資材散布などは宅地化が進む地域では近隣の理解が不可欠だが、教育ファームの取組みがその大切な理解促進にもつながっていくようだ。また、給食に指導農家の米や大豆を使用している小学校では、残食率が月平均1%弱にまで減少したという、うれしい成果も生まれている。

■生産者も変わる……食べる人を考えた米づくりへ

「教育ファームに携わると、自分がつくったお米を誰が食べるのかわからなくていいという気にはならなくなります。食べる人のことを考えて減農薬などにも取り組まないといけない気持ちになってきます。学校に出入りするなかで、栄養士の先生が子どもたちのためにがんばってくれているのを見て、子どもにとって栄養バランスは重要で、給食の充実は大切なことだと感じています。農家としては体験後の子どもの作文を読ませてもらうことが何よりの喜びです」（指導農家）

今、水田輪作による地場産小麦パンや、米粉料理を給食へという取組みが一部小学校で始まった。ここから、地域の加工業者や調理のプロなどとの新しい連携が生まれつつある。

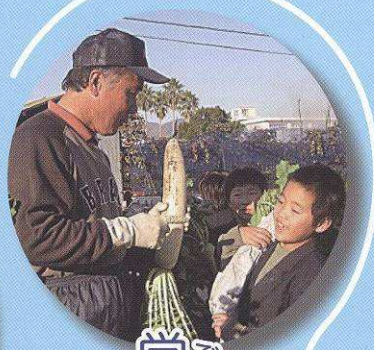
子どもたちに食と農の大切さを伝えていくことは、JA組織の次世代対策としても、農業の将来にとっても重要!との思いが、JA西三河の活動には込められている。

子どもが変わる 地域が変わる

いま、教育ファームがおもしろい!



育てる



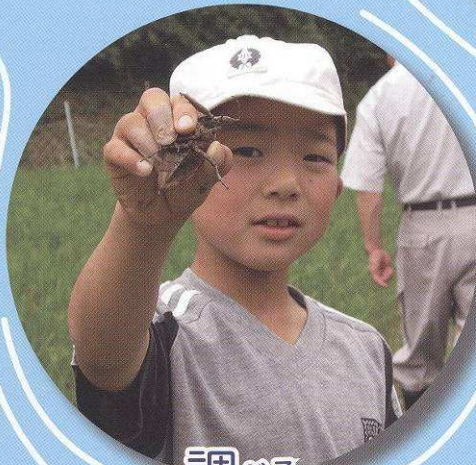
学ぶ



食べる



伝える



調べる

教育ファームってなに?

教育ファームは、生産者（農林漁業者）の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで、一貫した「本物体験」の機会を提供する取組みです。この体験を通して自然の力やそれを生かす生産者の知恵と工夫を学び、生産の苦労や喜び、食べものの大切さを実感をもって知ることが目的です。

社団法人 農山漁村文化協会



教育ファームは4つの場づくり

1.教育ファームは、「食育」の場

- 「食べる」の前に、生命あるものを「育てる」仕事があることを伝えたい。
- 人間(人)は食べものを育て、その食べものに育てられていることを。

2.教育ファームは、「体験学習」の場

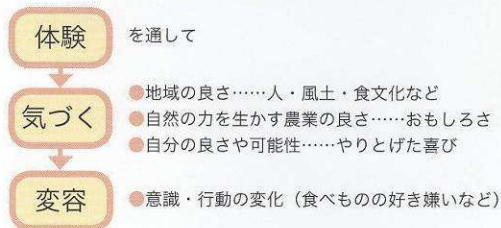
食育の基本は「体験」にあります。

言葉で教え込むのではなく、リアルに体で感じ、気づき、発見させ、心を豊かにさせること。

そのための「本物体験の場」が教育ファームです。

3.教育ファームは、「気づき」の場

五感フル回転の



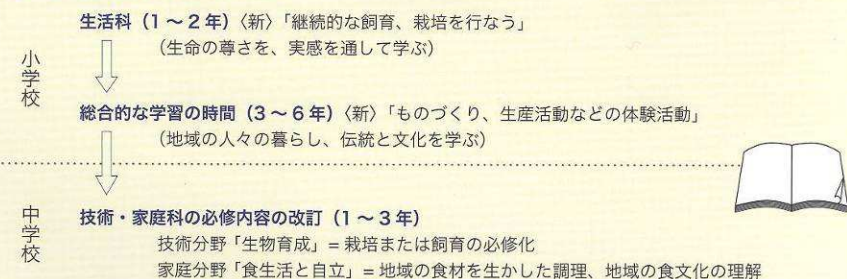
4.教育ファームは、「変容・結びあい」の場

子どもの未来を真ん中に

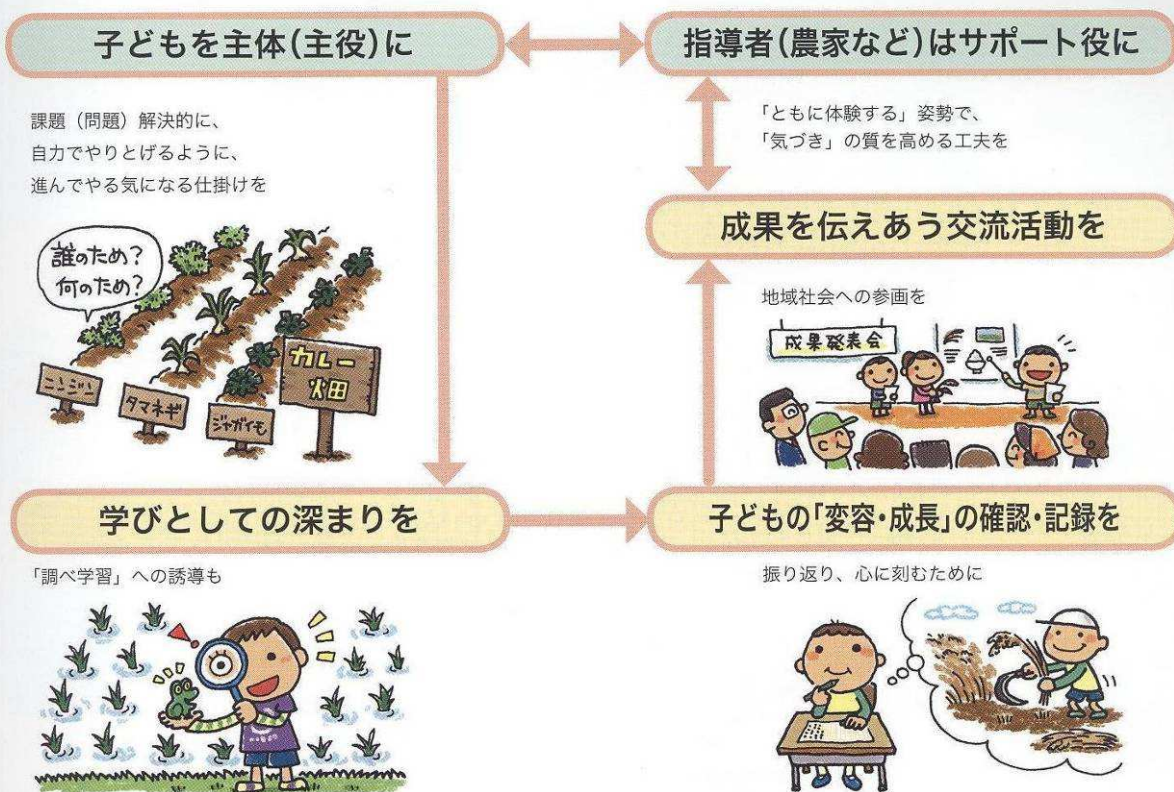
- 教育ファームの取組みで……地域の結びあいを密に



新指導要領を追い風に



体験から学ぶ……本物の学びを支えるために



カレーパンならぬ、カレーライスパンで地域が元気に!

兵庫県・佐用町 ほほえみ会
道の駅「宿場町ひらふく」の米粉パンに、新しい仲間が加わった。地元利神りかみ小学校の3年生A君のアイデアから生まれた「カレーライスパン」だ。

生活研究グループ「ほほえみ会」の教育ファームでは、野菜づくりだけでなく直売所の商品開発にも子どもたちの力を借りる。代表の井口美子さんが、子どもたちに、おいしいパンのアイデアを宿題にしたところ、A君は白いご飯を野菜カレーに混ぜた具を米粉のパン生地で包んだ「カレーライスパン」を提案。焼き上がりの香りと食感がうけ、一躍、直売所の人気商品になった。1個130円、限定50個が午前中にたちまち売り切れる。開発者のA君は、もともと引っ込み思案で会話も苦手だったが、自信がついたのか、いまや教室のリーダー格に変身。

教育ファームを通じて、地域の子どもの直売所も一緒に元気になっていく。



2009年3月16日 中日新聞より

教育ファームは、農業・農家の応援団づくり



北海道・由仁町 由仁よにふれあい農業小学校
「由仁ふれあい農業小学校」の三田村雅人さんは、「農業も教育ファームもどちらも本業」と言いきる。個人12,000円、家族24,000円の参加費で、親子の「生徒」たちが、5月から11月まで畑の「授業」を受ける土日開催型の教育ファームは、7年目を迎える。オーナー畑での野菜づくりや、育苗ハウスのなかでの調理・加工など、体験メニューも実に豊富だ。

生徒たちとふれあうなかで、三田村さんの暮らしは自給重視型になり、米以外の作物も多品目に、販売も直販型・通販型へと転換、以前とは農業経営の中身も変わってきた。

2008年度の生徒数は68人。参加費は合計で100万円に満たないが、札幌周辺から集まる親子を通じてお米の直販ルートが広がり、野菜の通販も増えている。教育ファームによる農業・農家の「応援団づくり」の効果は大きい。



生き物調査 (6月)



収穫祭・羽釜でご飯炊き(10月)

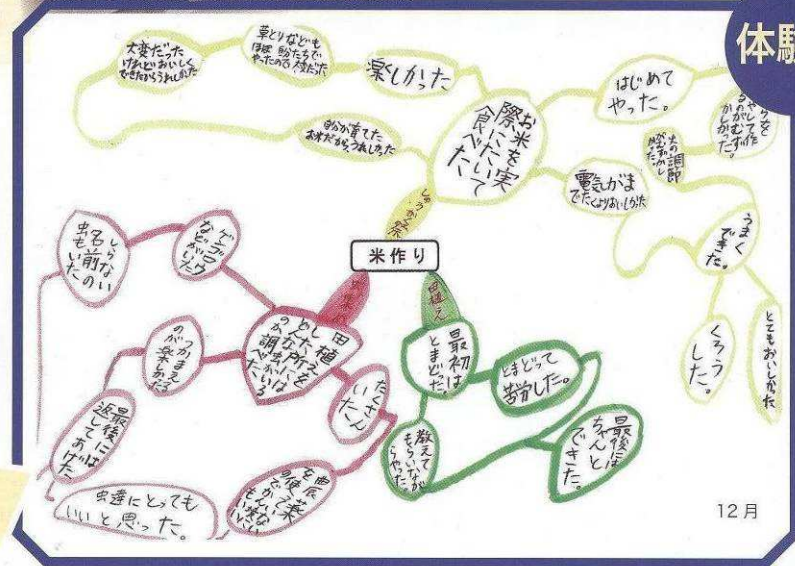


自分で育てたお米だからうれしかった(10月)

子どもも先生も
たかましくなったね



米作りを教える農家の萩原さとみさん



体験後

A君の「米作り」のイメージは、**心で感じた言葉** になりました。



ぼくは草取りをした理由は、はぎわらさんが農家の大変さを伝えたからだと思います。ぼくたちは、たくさん的人数でやったけど、農家の人は、少人数でしかも何回もやるので、とても大変なんだなと思いました。生き物の観察をしたのは、自然の大切さと生き物のおかげで、稲が育つという事は、はぎわらさんが伝えたからだと思います。生き物がいるから、稲が育つのに、もし生き物がいなくなったら、稲は育たなくなってしまうかもしれないから、生き物は大切だと思います。かまごご飯をたいたのは、昔の人のちえと自然を大切にすることをお教えたから、はぎわらさんには、かまごでたいたのだと思います。まきで焼くわけではなく、わらで焼くたわらを、むだなく使えるので、自然にやさしいと思います。ご飯は食べていて、ぼくは、自然のありがたさを感じました。また、おいしいご飯が食べられたのは、農家の人たちと自然のおかげだと思います。体験食農園を通して、農家の人の大変さ、自然の大切さ、生き物の大切さ、昔の人のちえ、自然のありがたさを、免が強できました。この事を、これから生かしていきたいと思います。

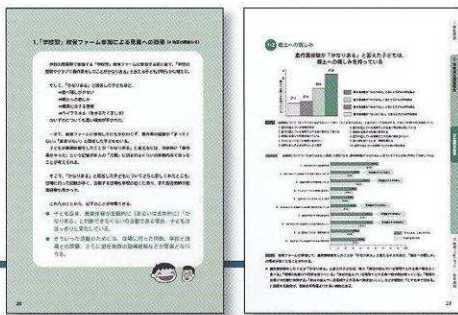
羽釜を使ってワラで炊いたご飯から、
C君が感じたことは…



ここまで見えた！教育ファーム取組み効果

平成20年度「教育ファーム」事業成果・調査報告書

やりっぱなしでなく、体験による「変容・成長」の確認・記録が「教育ファーム」においてはとても大切なこと。この変容をアンケートや作文、ウェビングマップ、インタビューで専門家が分析！教育ファームで変わる子どもや大人（親、教師、生産者）の軌跡を丁寧に解説しています。



【全国11地区2000人を超えるアンケートから】

心に残る「深い」体験をした子どもほど、「郷土への親しみ」や「ライフスキル(生きるたくましさ)」にも効果が及んでいる。

「ワークシート」と合わせて活用しよう！

指導者・教師向け「教育ファーム」実践ファイル



3つの特徴

1 指導にあたる生産者や学校・自治体担当者向けの「実践の勘どころ」集
豊かな農林漁業・食体験を子どもたちにプレゼントするアイデア・ヒントが満載です。

2 5つのキーワードで体験の深まりと「学びの目標」をサポート

(1) 出会いの演出、(2) いのち、(3) 技と知恵、(4) 暮らす働く、(5) つなぐ、
で実践事例を分類しています。

3 組み合わせは自由自在！体験内容と活動回数に応じて使えるカード形式

子どもたちの関心の広がりに合わせて新たなストーリーづくりにも役立ちます。

※平成20年度 農林水産省「教育ファーム推進事業」のモデル実証地区の実践事例を豊富に掲載

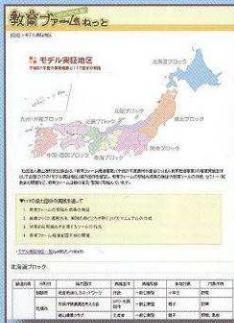
「ワークシート」「調査報告書」「実践ファイル」は、「教育ファームねっと」からダウンロードできます

教育ファームねっと にアクセスしよう

教育ファームねっと

検索

今年は全国117団体
モデル実証地区



事業概要および協力団体
一覧

いま、教育の場として
田んぼや畑がおもしろい！
現地レポート



全国からのとれたて取材報告

知らなきゃ損する実践の勘どころ



「教育ファーム」あっちの話こっちの話

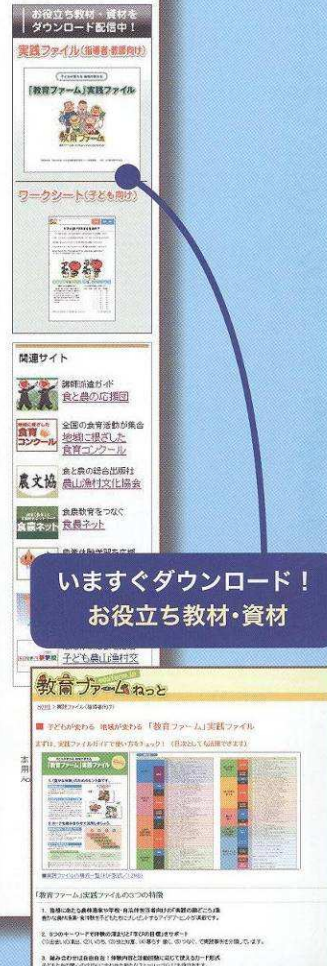
お問い合わせ先

(社)農山漁村文化協会 提携局内 「教育ファーム推進事業」事務局

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

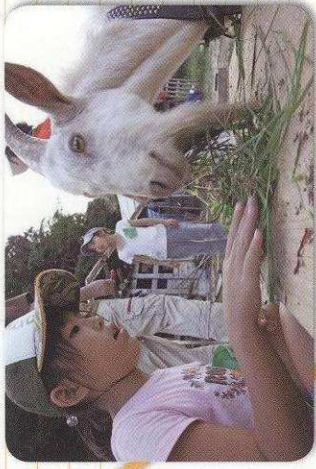
TEL. 03-3585-1144 FAX. 03-3585-3668 E-mail : f-edufarm@mail.ruralnet.or.jp

いますぐダウンロード！
お役立ち教材・資料



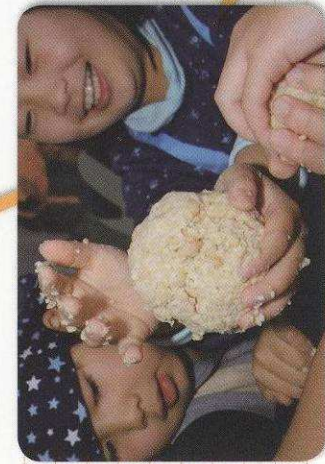
指導者向け「実践ファイル」と、
子ども向け「ワークシート」を、
無料でダウンロードできます

<http://www.edufarm.jp/>



子どもが変わる 地域が変わる

「教育ファーム」 ステップアップガイド



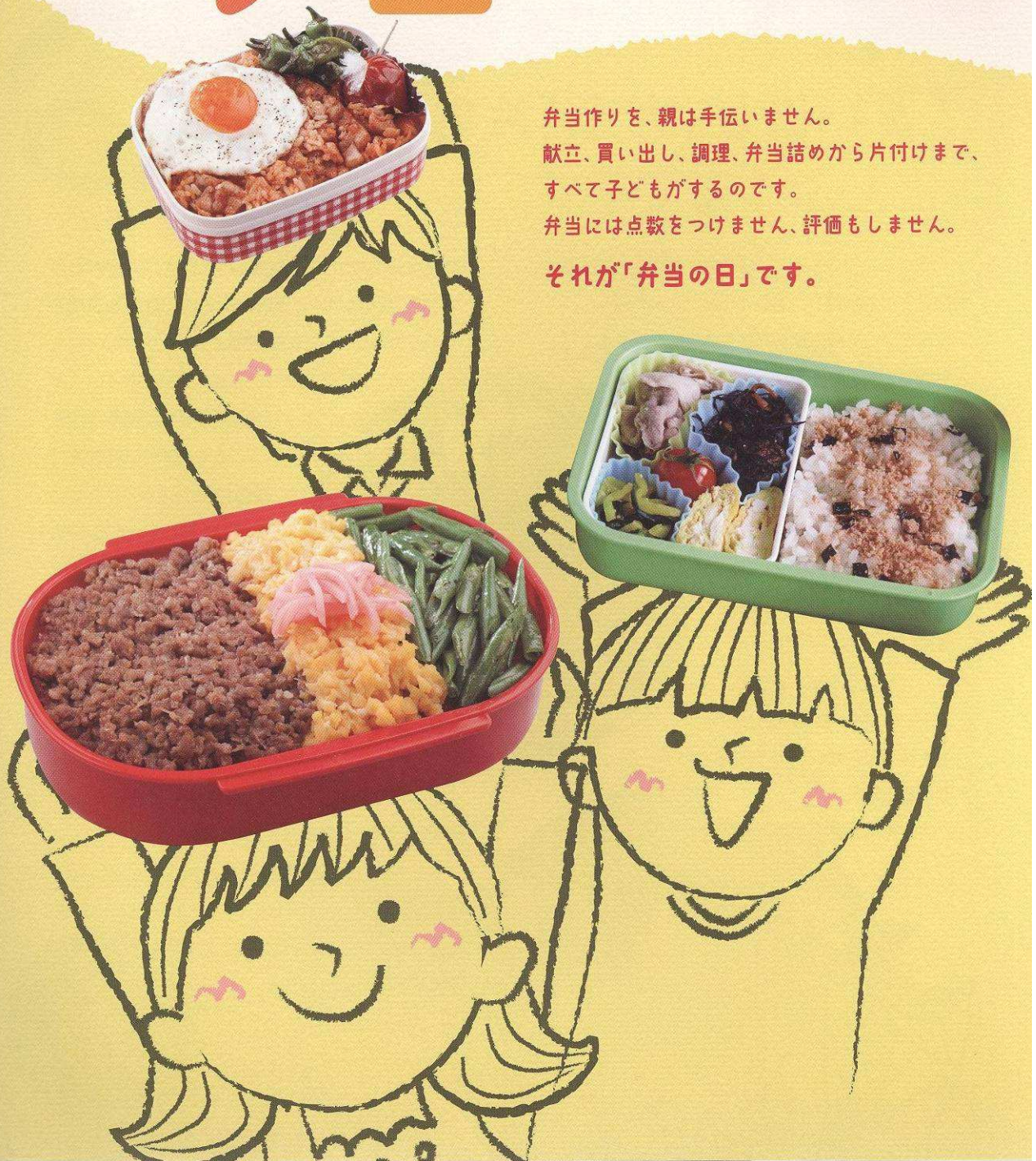
「ステップアップガイド」構成一覧

章	番号	内容
はじめに	表紙	
	目次	
	はじめに	「教育ファーム」ステップアップガイド 内容と使い方の案内
	はじめに	「教育ファーム」ステップアップガイド 内容と使い方の案内
1 いきいき教育ファーム 2 各自どこをプラスしよう	1-1-a	心に深く残る！品目や体験内容のプラス
	1-1-b	子どもたちと家庭に、しっかりと刻みたい
	1-2-a	地域みんなの喜びに！参加者、スタッフのプラス
	1-2-b	学び、教えることで、大きく育て
	1-3-a	もっと長く冬までつづける活動の楽しみ
	1-3-b	大地に海に冬の恵みを生かせば、体験が豊かにつながる
	1-4-a	交流の時間を増やそう
	1-4-b	「張り切り」で、期待がさらにふくらみます
	2-1-a	通いたくなる作付けや収穫の工夫
	2-1-b	幼い子どもにも、お母さんとうれしい畑とは
2 スタートから魅力を！ 園場デザイン・体験目標	2-2-a	田畑の周りをドラマティック体験いっぱい！
	2-2-b	どろんこ遊びや動物たち…目を凝らせば、ドラマティック体験の素材は無数にある！
	2-3-a	教育ファームを子どもの「生活の場」に
	2-3-b	放課後、宿泊体験、展開さまざまな「教育ファーム」
	2-4-a	目標を掲げ、意気込みを伝えて！ゴールに向けてスタートしよう
	2-4-b	「目標」は「目標」にとどまらな！
	2-5-a	目標を掲げ、意気込みを伝えて！売ろう、アピールしよう
	2-5-b	つくって売ろう！そこから生まれる学び、伝える気持ち
	3-1-a	園場・体験教材・作業こう着きつめる、心に残す
	3-1-b	やる気がわいてくる！手づくりグッズのすすめ
3 関心が高まる、モチベーションが持続する	3-2-a	教育ファームと学校・家庭をつなぐ同じ作物 ミニ栽培
	3-2-b	育てていく作物に熱中！イネも野菜もミニ栽培
	3-3-a	作物の育ち、自然の力を見つめる、比較実験いろいろ
	3-3-b	びっくり作物の成長パワー 子どもたちの出合い
	3-4-a	みんなで働く楽しみ、作業の意味を伝えよう
	3-4-b	作業しながら野菜がわかる、言葉も響く
	3-5-a	活動日には、作業体験と食体験をセットで
	3-5-b	広げよう楽しい食体験 おすすめ夏の収穫祭
	3-6-a	畑を楽しみの場所へ～遊びや農のアート
	3-6-b	教育ファーム・アート集
3-7-a	体験フィールドの生きものたちとのつきあい	
3-7-b	生きもの観察を深めるいろいろなグッズ、地図、水族館	
3-8-a	夏休みの教育ファーム こんな取り組み	
3-8-b	「じっくり」取り組めるから「じっくり」身につくモノづくり、サバイバルカ...	
3-9-a	インターネットで情報提供・交流	
3-9-b	教育ファーム・ブログ集	

章	番号	内容
4 子どもが楽しむ、食・生活・学習のスキルアップ	4-1-a	教科学習と「総合的な学習」がさらに充実 教育ファームカレンダー
	4-1-b	教育ファームカレンダー作成のすすめ
	4-2-a	教育ファームからこんな授業展開はいかがでしょう
	4-2-b	国語と社会と総合的な学習を教育ファームで合科
	4-3-a	農・自然と出会う子どもの感性を大切に 学びに生かそう
	4-3-b	見てさわって考える場が教育ファームにはいっぱい！
	4-4-a	国語・図工・音楽…表現の深まりを見つめよう
	4-4-b	絵に音楽に子どもたちの豊かな表現
	4-5-a	育てると一とる一食べるから、「環境」の深い理解
	4-5-b	体験する生産・生活と、環境との深いかわり
5 地域が元気に指導者の願いを子どもたちに	4-6-a	育てた野菜やお米で、給食をグンと充実
	4-6-b	学校給食で家庭や地域をつなげよう
	4-7-a	収穫物・加工品・料理を地域に届ける
	4-7-b	教育ファームの収穫物で結び合う学び、つながる地域
	4-8-a	教育ファームを舞台に「総合的な学習」
	4-8-b	教育ファームで「人との出会い」から交流へ
	4-9-a	どうして？ どちらを選ぶ？…疑問、議論からストーリー
	4-9-b	一緒に農業体験をした生きものをどうするか その選択
	4-10-a	やってみよう 教育ファーム姉妹校の交流
	4-10-b	教えてお兄さんお姉さん！農業の魅力、漁業の楽しさ
6 教育ファームの成長を引き継ぐ	5-1-a	教える人も元気になる 指導者ネットワーク
	5-1-b	教育ファームに取り組みさまざまな人びと
	5-2-a	子どもたちとともに地域の「食・農」の魅力を見直し
	5-2-b	昔の暮らしの体験と復活で、ふるさとの歴史や文化が伝わる
	5-3-a	地産地消 ニュースタイルを子どもたちと
	5-3-b	自然の恵みを丸ごと楽しむライフスタイルを
	5-4-a	農地、施設に子どもの声を
	5-4-b	元氣いっぱい子どもたちの姿を
	5-5-a	集落営農・産地づくり、教育ファームで一歩前進
	5-5-b	ふるさと輝け！子どもたちとここに注目
6-1-a	子どもたちによる宝の受継ぎ	
6-1-b	「つながる」をキーワードにした取組み、あれこれ	
6-2-a	教育ファーム ミニミュージアムをつくらう	
6-2-b	家庭に、学校に、指導生産者に、「教育ファーム財産」を残そう	
6-3-a	子どもが育つ・生きものが育つ 田園・里山空間として	
6-3-b	農の生活空間を守り引き継ぐさまざまな取組み	
6-4-a	発表会、食フェスタ、感謝祭でアピールを	
6-4-b	いきいきフェスタや感謝祭もう立派な地域・社会の一員だ	

のくる! たべる! かたづける!

弁当の日



弁当作りを、親は手伝いません。
献立、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、
すべて子どもがするのはです。
弁当には点数をつけません、評価もしません。
それが「弁当の日」です。



のくる! たべる! かたづける! 弁当の日

「買い出し」から「片付け」まで ぜんぶ1人で!



子どもたちの生きている時間の中で、学校や塾に
関係する「まなびの時間」が増えています。
生きていくための基本的な衣食住に関する
「くらしの時間」は減っているという
のに…。

香川県の小学校で竹下
和男校長(当時)は、子ども
たちに「くらしの時間」を
取り戻したほうがよいと
考え、2001年に子どもが作
る「弁当の日」を始めました。

子どもが年に数回、自分でお弁
当を作って学校に持ってくるという
取り組みです。

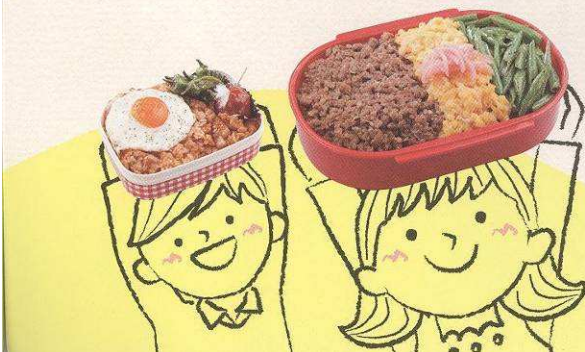
何を作るかを決めることも、買い出しも、調理も、

お弁当箱に詰めるのも、片付けも、すべて子どもが
します。親も先生も、その出来具合を批評も評価も
しないという約束です。



大人は子どもが包丁や火を
使うことを「危ない」「失敗し
たら」などと心配し、あるい
は親が「やったほうが早い」「教えるのは面倒」と手
を出してしまいがちです。
自信がなくて親に手伝って
もらう子どももいます。でも
「ぜんぶ自分で作った」という友
だちを見ているうちに「次は自分だ
けで作ってみよう」と決心する時がやってき
ます。だから、それはかまわないのです。

子どもには自分で伸びようとする力が備わって
いることを思い出してほしいのです。大人はじっと
見守ってあげてほしいのです。じっと見守ることが
できるのは大人の方です。





子どもの感想

子どもの感想

朝起きるのは大変だったけど、がんばった。学校に持っていったらみんなが「おいしそう」と言ってくれたのがうれしかった。

小5 男子

子どもの感想

たまご焼きの形がくずれそうであぶなかった。全然違うのになった。でも、おいしくて自分でもびっくりした。

小5 男子

子どもの感想

バランスよくするために、ほうれん草のおひたしを付け加えた。親の大変さがわかった。

中2 男子

親の感想

今回も、「お母さん毎日大変やね」と労をねぎらってくれました。

中1 女子母

親の感想

家の手伝いを何もしなかった子が、その後たびたび手伝いをするようになりました。

中1 男子母

親の感想

「時間がない、早く!」「そうじゃなくて…」という言葉をいくつ飲み込んだらう。でも、回数を重ねるたびに少しずつ要領よく、手際よく料理していく子どもの姿は、ひと回り大きく感じられた。

小6 女子母

親の感想

“感謝”の心を育む

「弁当の日」の体験を通じて、子どもたちは食べることが「いのちのバトンリレー」であることを学んでいきます。自己肯定感が育まれ、目が輝き始める子どもがいます。遠い日の家庭でのぬくもりを思い出す親がいます。子どもが地域への感謝に気付くこともあります。

そして、想像力が培われ、感性が磨かれ、人に喜ばれることをうれしいと知り、ものごとを感謝とともに受け止められ、この世界をまっすぐな目で見つめられるようになるでしょう。

だから、ひろがれ「弁当の日」

そうなるといいな、そうなるかもね、うちの学校でもやらないかな、とちょっとでも思ったあなた。今日から「弁当の日」の応援団です。今からでも遅くありません。身近なところで、できることから始めませんか？



写真提供：
竹下 和男

「弁当の日」関連書籍（共同通信社刊）



できる！を伸ばす
弁当の日

竹下和男 編著
1,000円（税込）



ひとりで
お弁当を作ろう

多賀正子 著
735円（税込）



エダモンおすすめ
ひとりで弁当を作ろう

枝元なほみ 著
840円（税込）

「弁当を作る」(平成14年度 滝宮小学校卒業生に贈った言葉) 竹下 和男

あなたたちは、「弁当の日」を2年間経験した最初の卒業生です。

だから11回、「弁当の日」の弁当づくりを経験しました。

「親は決して手伝わないでください」で始めた「弁当の日」でしたが、どうでしたか。

食事を作るこの大変さが分かり、家族を有り難く思った人は優しい人です。

手順よくできた人は、給料を貰える仕事についたときにも、仕事の税取りのいい人です。

食材が前になかったり、調理を失敗したりしたときに献立の変更ができた人は、工夫できる人です。

友だちや家族の調理のようすを見て、技を一つでも盗めた人は、自ら学ぶ人です。

微かな味の違いに調味料や隠し味を見抜いた人は、自分の感性を磨ける人です。

旬の野菜や魚の、色彩・香り・触感・味わいを楽しめた人は、心豊かな人です。

一粒の米・一個の白菜・一本の大根の中にも「命」を感じた人は、思いやりのある人です。

スーパーの棚に並んだ食材の値段や賞味期限や原材料や産地を確認できた人は、賢い人です。

食材が弁当箱に納まるまでの道のりに、たくさんの働く人を思い描けた人は、想像力のある人です。

自分の弁当を「美味しい」と感じ「嬉しい」と思った人は、幸せな人生が送れる人です。

ジャケの切り身に、生きていた姿を想像して「ごめん」が言えた人は、情け深い人です。

登下校の道すがら、稲や野菜が育っていくのを嬉しく感じた人は、慈む心のある人です。

「あるもので作る」「できたものを食べる」ことができた人は、たくましい人です。

「弁当の日」で仲間がふえた人、友だちを見直した人は、人と共に生きていける人です。

調理をしながら、トレイやバックのゴミの多さに驚いた人は、社会を良くしていける人です。

中国野菜の値段の安さを不思議に思った人は、世界を良くしていける人です。

自分が作った料理を喜んで食べる家族を見るのが好きな人は、人に好かれる人です。

家族が手伝ってくれそうになるのを断れた人は、独立していき力のある人です。

「いただきます」「ごちそうさま」が言えた人は、感謝の気持ちを忘れない人です。

家族が揃って食事をすることを楽しいと感じた人は、家族の愛に包まれた人です。

滝宮小学校の先生たちは、こんな人たちに成長してほしくて2年間取り組んできました。

おめでとう。これであなたたちは、「弁当の日」をりっぱに卒業できました。

「弁当の日」に関するご意見
ご感想などはこちらまで。
kki.bentounohi@kyodonews.jp



制作：株式会社共同通信社「弁当の日」応援プロジェクト事務局
協力：大阪ガス 大阪ガス株式会社 クリナップ株式会社
SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社 全国農業協同組合連合会
iōkyō gā 東京ガス株式会社